2021 年度 J-STAGE ジャーナルコンサルティング

ミニセミナー 報告書

2023/2/9

国立研究開発法人科学技術振興機構
情報基盤事業部

目次

1. 開催概要 2
1.1. 趣旨 2
1.2. 開催形態・日時および参加状況 2
1.3. プログラム 2
2. セミナー概要 3
1）J-STAGE 登載誌の質向上に向けた取り組みとジャーナルコンサルティング 3
2）オープンアクセスの概要 3
3）CC ライセンスの概要と設定 4
4）DOAJ の概要と収録申請 4
5）ジャーナルの評価と課題への取り組み 4
公開資料 5
3. 開催後アンケートの結果（概要） 6
巻末. 開催後アンケートの結果（詳細） 7

© 2023 Japan Science and Technology Agency
この文書はクリエイティブ・コモンズ[表示 4.0 国際]ライセンスの下に提供されています。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

1.　開催概要

1.1.　趣旨

J-STAGE 事業においては、J-STAGE システム自体の整備に加え、ジャーナル発行機関との連携を強化し登載誌の質向上を図る取り組みも進めており、その取り組みのひとつとして 2017 年度よりジャーナルコンサルティングを実施してきた。2019 年度からは、このジャーナルコンサルティングから派生して、J-STAGE の推進するオープンアクセスならびにジャーナルの質向上に関する基礎的な事項の周知を目的とし、コンサルティングに参加していない発行機関を対象としたミニセミナーを開催している。

1.2.　開催形態・日時および参加状況

開催形態：Zoom ミーティングによるオンラインセミナー

開催日時（いずれの日程もすべて同じ内容）：

第 1 回　2021 年 10 月 20 日（水）13 時～15 時

第 2 回　2021 年 11 月 19 日（金）15 時～17 時

第 3 回　2021 年 12 月 21 日（火）10 時～12 時

第 4 回　2022 年 1 月 24 日（月）14 時～16 時

参加者数：

第 1 回　23 名

第 2 回　27 名

第 3 回　41 名

第 4 回　27 名

計　　118 名

参加者の所属は、約 5 割が学協会事務局、約 4 割が編集委員、約 1 割が印刷会社であった。

1.3.　プログラム

1）J-STAGE 登載誌の質向上に向けた取り組みとジャーナルコンサルティング（15 分）

2）オープンアクセスの概要（25 分）

3）CC ライセンスの概要と設定（30 分）

（休憩：5 分）

4）DOAJ の概要と収録申請（20 分）

5）ジャーナルの評価と課題への取り組み（10 分）

6）全体を通しての質疑応答・個別相談（15 分）

各セクションの後に質疑応答の時間を設け、Zoom のチャット機能および口頭にて質問を受け付けた。

2. セミナー概要

1）J-STAGE 登載誌の質向上に向けた取り組みとジャーナルコンサルティング

ジャーナルコンサルティングとは、JST および JST が委託する海外のコンサルティング会社が、J-STAGE 登載誌の発行機関に対する個別事情を踏まえたコンサルティングを通じて、J-STAGE 登載誌の質向上のための課題解決の支援を行うものである。

例年、4 月～5 月に参加募集を行い、6 月に採択されてから翌年 3 月までの約 9 ヶ月間を実施期間としている。コンサルティングの流れとしては、まず、コンサルタントがジャーナルの現状分析を行い、次に、その現状分析にもとづいた改善すべき課題をコンサルタントと発行機関の間で決定する。そののち、発行機関が実際に改善に向けた活動を進めていく。

2017 年度および 2018 年度はパイロットプロジェクトとして計 5 学会、2019 年度は 5 学会に対しコンサルティングを実施した。2020 年度は、DOAJ への収載を統一目標に設定し、すでにオープンアクセスを実現しているジャーナルを参加対象として英文誌 15 誌、和文誌 5 誌に対して実施した。2021 年度は、改善に意欲のあるジャーナルが、その改善段階に応じて多様な支援を受けられる形（8 つのコースを提供）で、英文誌 12 誌、和文誌 8 誌に対して実施した。

2）オープンアクセスの概要

オープンアクセス（OA）とは、あらゆる人が学術論文の全文に無料でアクセスでき、その論文の二次利用が自由にできる状態を指す。この概念の登場は、1980 年代以降の学術雑誌の価格高騰とインターネットの普及に端を発する。

OA は、その実現方法によってグリーン OA、ゴールド OA、ハイブリッド OA などの呼称が用いられる。このうちゴールド OA は、ジャーナルが読者の支払う購読料以外の方法で出版コストをまかなうことにより OA を実現するものである。その財源は、論文の著者が支払う論文掲載料による場合が多い。

論文を OA で公開するメリットとしては、広く合法的に利用されることに加え、論文の閲覧数や被引用数、ひいては投稿数の増加などが挙げられる。また、世界各国において政策レベルでの OA に関する方針が策定されており、日本でも、JST をはじめとする研究助成機関が研究成果の OA に関する方針を発表している。

J-STAGE においても、利用規約の中で利用申請条件の一つとして「オープンアクセスの実現に積極的に取り組めること」と明記している。しかしながら、J-STAGE 登載誌の 8 割以上は二次利用の範囲・条件が明示されていないフリーアクセス誌であり、クリエイティブ・コモンズライセンス（CC ライセンス）の導入によって OA を実現できているジャーナルは増加傾向にはあるものの、6%に留まっている。

3）CC ライセンスの概要と設定

CC ライセンスとは、著作物の二次利用条件を表示するためのツールである。CC ライセンスを著作物に付与することによって、著作権者は著作権を保持したまま著作物を自由に流通させることができ、その利用者はライセンス条件の範囲内で再配布や改変などができる。CC ライセンスは、学術雑誌の OA 化におけるライセンスとして世界的なデファクトスタンダードとなっている。

CC ライセンスは 6 種類あり、それぞれ二次利用を許可する条件や範囲が異なる。CC ライセンスの導入にあたっては、ジャーナルの事情に合ったライセンスを採用するための検討が求められる。また、導入決定後は、ジャーナルの投稿規程にその旨を明記することで論文著者への周知を行う必要がある。CC ライセンスを論文に付与する際、J-STAGE の書誌画面と本文 PDF の両方に CC ライセンスを表示することで、ライセンス情報を正しく流通させることが可能になる。

CC ライセンスを付与できるのは著作権者であり、論文著者が学会へ著作権を譲渡している場合は、学会が CC ライセンスを決定することができる。ただし、日本の著作権法においては著作者人格権が論文著者に残り続けるため、改変を許可するライセンスを付与する場合は、論文著者に著作者人格権の不行使を宣言してもらう必要がある。

2021 年 10 月の時点で CC ライセンスを導入済みの J-STAGE 登載誌は 156 誌あり、その一部は Directory of Open Access Journals（DOAJ）に収載されている。

4）DOAJ の概要と収録申請

DOAJ とは、国際的に認知された基準を満たす高品質の OA ジャーナルを収録するオンラインディレクトリサービスである。近年、論文掲載料目当ての粗悪学術誌、いわゆるハゲタカジャーナルが問題となる中で、DOAJ はハゲタカジャーナルではない OA ジャーナルであることを証明するホワイトリストとして国内外で活用されている。2021 年 10 月の時点で、DOAJ には言語や地域、分野を問わず約 17,000 誌の OA ジャーナルが収載されているが、出版国が日本のものは 56 誌、また、そのうち J-STAGE 登載誌は 35 誌に至っている。

DOAJ のウェブサイトでは、キーワードの他にカテゴリや CC ライセンスの種類などによってジャーナルや記事を検索できる。また、各ジャーナルのページでは論文掲載料や投稿規程へのリンクなどの情報を参照することができる。

DOAJ へ収載されるには 7 つの基本要件への準拠が求められる他、「学術出版における透明性とベストプラクティスの原則」も満たす必要がある。DOAJ への収載申請はオンラインフォームから行い、最長 6 ヶ月の審査期間の後、収載可否が決定される。

5）ジャーナルの評価と課題への取り組み

ジャーナルコンサルティングでジャーナルコンサルティングでは、多くの投稿を呼び込

み、質の高い論文を定期的に発行できる体制の整っているジャーナルを「質の高いジャーナル」と定義している。ジャーナルの発展には複数の要素を総合的に考えていく必要があるが、多くの場合、Aims & Scope、投稿規程、編集委員会の構成、ジャーナルウェブサイトなどといった、ジャーナル運営の「基盤」にあたる情報の整備が特に重要な要素となる。

「基盤」は、投稿者や読者が「このジャーナルはどんなジャーナルなのか」を知る上で必要な情報である。この情報が不足していたりアクセスしにくかったりすると興味や信頼を抱いてくれる人が増えず、閲覧数や投稿数が伸び悩み、余計に興味や信頼が失われていくという負のスパイラルに陥ってしまう。逆に基盤がしっかりしていると、信頼・信用できるジャーナルであるという評価を得やすく、閲覧数や投稿数を伸ばしていく正のスパイラルを生み出せる可能性が高まる。ジャーナルの改善を行う際にはまずジャーナルの現状を分析する必要があるが、そこで改善すべき事項が複数出てきた場合も、ジャーナル運営の正のスパイラルを起こす第一歩として、まず「基盤」の改善から優先して着手すべきである。

公開資料

本セミナーの発表資料、当日の質疑応答の抜粋を、下記 URL に掲載している。
https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/InformationForSocieties/TAB5/-char/ja

3.　開催後アンケートの結果（概要）

各回の開催後、参加申込者宛にアンケート回答の依頼メールを送信した。4 回を通しての回答数の合計は 61 で、回収率は 51.2%であった。

各セクションの発表についてたずねた設問では、いずれのセクションにおいても「大変参考になった」および「参考になった」との回答が 95%程度を占めた。また、本セミナーの受講を通じて取り組んでみたいと思ったテーマをたずねた設問（複数選択可）では、それぞれ全体の 50%程度が「オープンアクセス化」、「CC ライセンスの導入」、「投稿規程等の標準ドキュメントの整備」を挙げた。

自由記述では「話や資料が分かりやすかった」「ルールや規準は刻々と変化してきていると思うので、継続的にこのようなイベントを開催いただければ」などのコメントがあった。

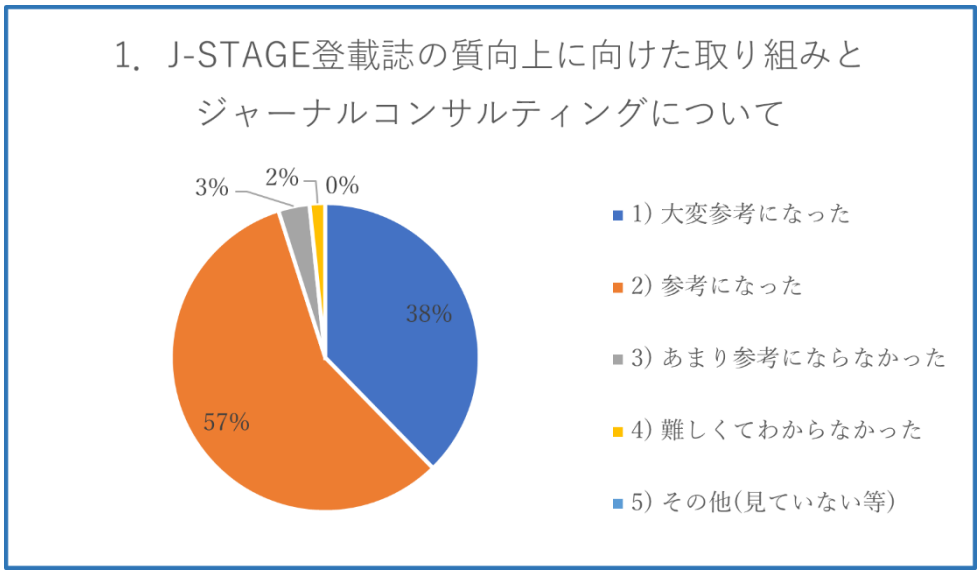
巻末. 開催後アンケートの結果（詳細）

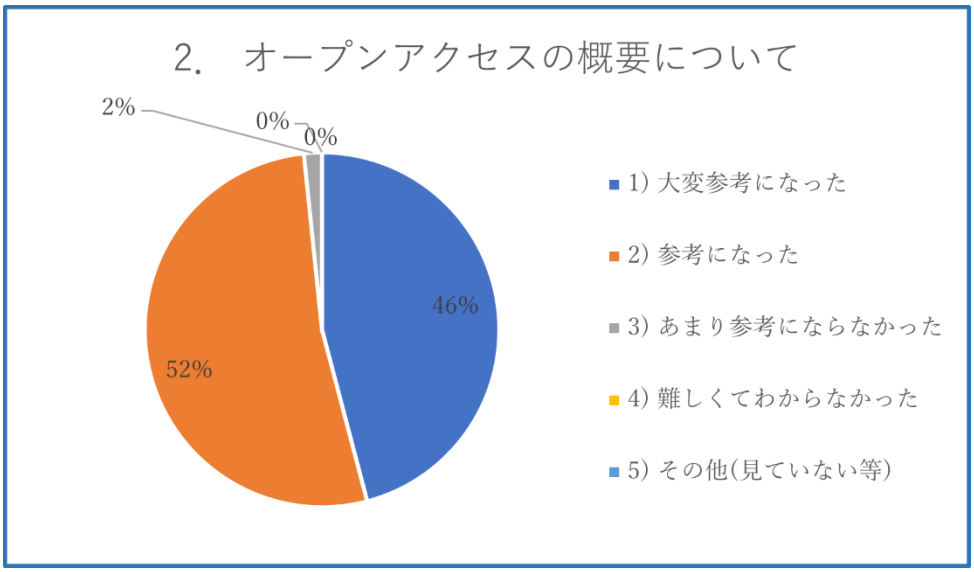
回答数：61

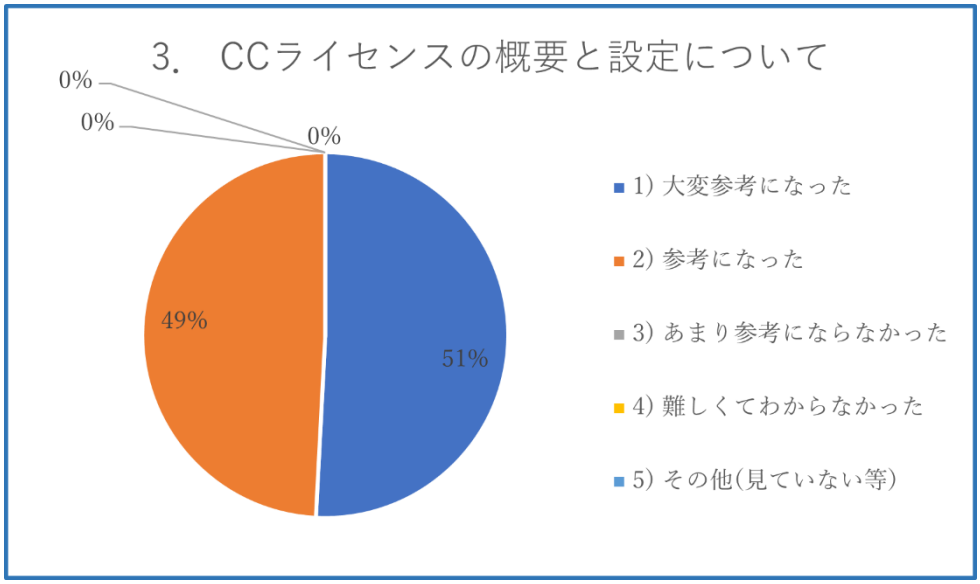
所属(複数選択可)：

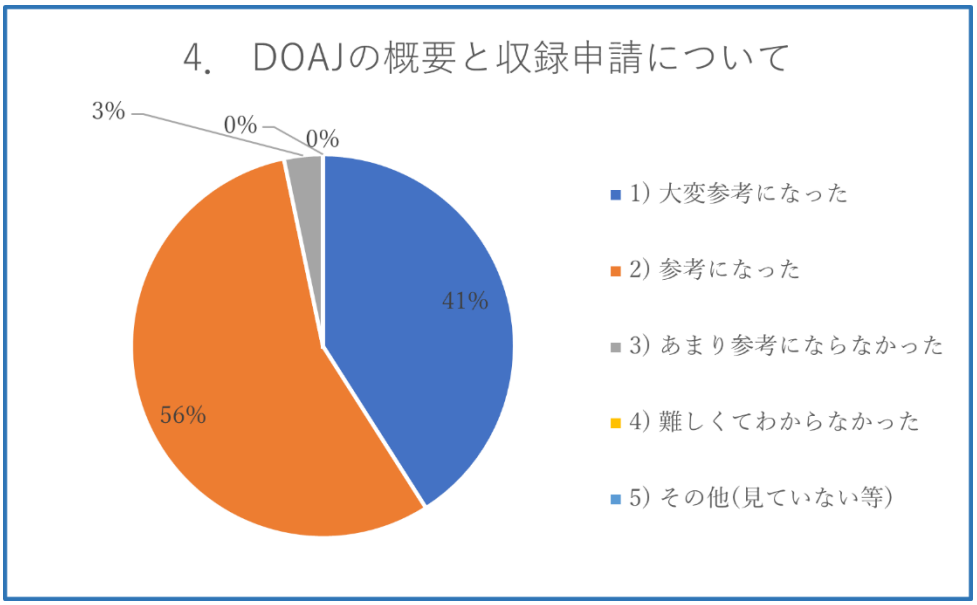
学協会(役員) 14、学協会(編集委員) 22、学協会(事務局) 26、印刷会社・出版社 7、その他 1、無回答 2

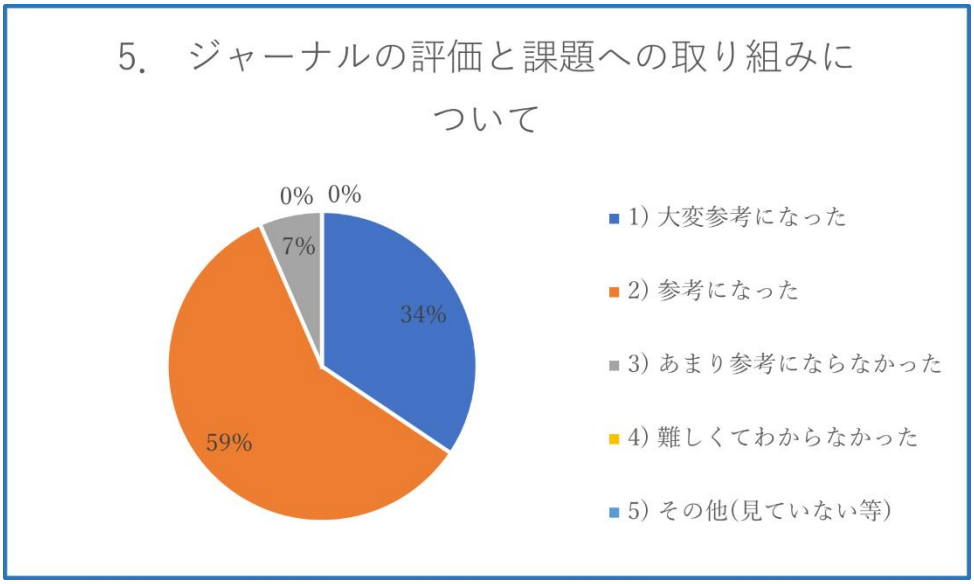
① 本セミナーについて



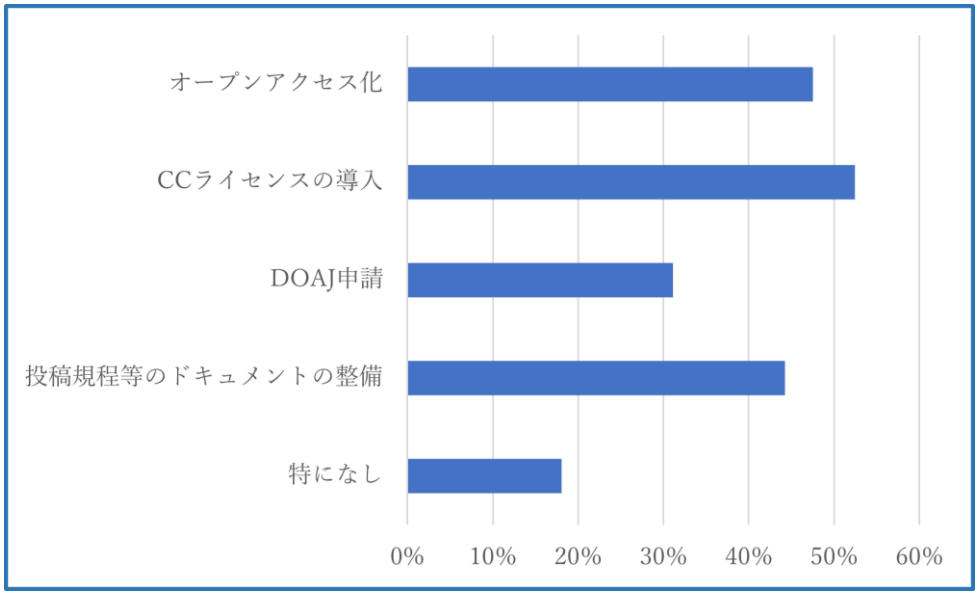



3.　CCライセンスの概要と設定について
0%
0%
0%
49%
51%
1) 大変参考になった
2) 参考になった
3) あまり参考にならなかった
4) 難しくてわからなかった
5) その他(見ていない等)


4.　DOAJの概要と収録申請について
3%
0%
0%
41%
56%
1) 大変参考になった
2) 参考になった
3) あまり参考にならなかった
4) 難しくてわからなかった
5) その他(見ていない等)



② 本セミナーを受講されて、取り組んでみたいと思われたテーマは何ですか？（複数選択可）



③ 本セミナーで取り上げなかったことで、ジャーナルの質向上やオープンアクセスなどについて分からないこと、知りたいことなどがありましたらお書きください。

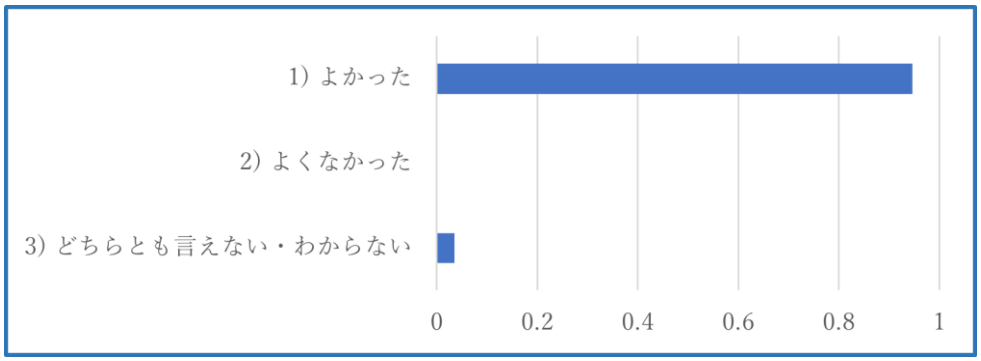
・ Web of Science など有力な論文データベースへの登録を目指す場合に必要な手続きや情報などの解説

④ ジャーナルの出版に当たって、J-STAGE に支援してほしいことがありましたら具体的

にお書きください。

- 書誌 XML 作成ツールを利用して書誌 XML を作成する一連の作業の解説付きの動画があるとありがたい。

⑤ 本セミナーはウェビナーツール（Zoom）で開催しましたが、開催方式について当てはまるものをご選択ください。



（ウェビナー形式に関する自由記述）

- 地方にいるので，オンライン開催の方が参加しやすいです。
- オンラインだと参加しやすいです。対面だと学務などがあり参加できなかったと思います

以上